

ロンドンの中・小規模 TERRACED HOUSE

研究ノート(3)

会津大学短期大学部

産業情報学科

時野谷 茂

ロンドンの中・小規模 TERRACED HOUSE

研究ノート(3)

時野谷 茂

平成 21 年 12 月 2 日受付

【要旨】 本稿はロンドンに一般にあり都市景観の主要な要素となっている TERRACED HOUSE について町並み構成パターンを中心に調査した結果について記すものである。今回はロンドンの西部 Queens Park 駅の北東に位置する地域、南を LONDON & NORTHWESTERN RAILWAY、北を HAMPSTED JUNCTION RAILWAY、西を SALUSBURY ROAD そして東は KINGSGATE ROAD 並びに KILBURN HIGH ROAD に囲われた地区を対象とした。結果として 30 街路（家並としては 60）1384 住戸についてのデータを収集し分析を行なった。分析方法については前回までの手法に加え「住戸ファサードリスト」と「街路両側におけるファサードデザイン関係図」を用いた。

これまでの地区との比較でこの地区の特徴を述べると家並構成単位については鏡写しの 2 戸を組み合わせたもの (b) が 88% を占め、これまでで最も多くみられた。(b) と (c) を組み合わせるより更に大きなパターンを成すもの (d) が今回はまったく見られなかった。(b) または複数の (b) と別の 1 戸を組み合わせて大きなパターンを成すもの (e) もみられなかった。家並に見られる建物の表面デザインの種類数という点では 1 種類 (30%)、2 種類 (25%)、3 種類 (15%)、4 種類 (10%)、6 種類 (6.7%) そして 7 種類 (10%) と多くの種類を含んでいる家並が多くみられた。全体構成については FLUHAM 地区では (ア) 単一のパターンを連続させるもの (32%)、(イ) 家並を数区に分けそれぞれに別のパターンを並べるもの (街路による分節有) (12%)、(ウ) 家並を数区に分けそれぞれに別のパターンを並べるもの (街路による分節無し) (43%) とこの 3 タイプで 9 割近くを占めており、象徴的な形態を成すものが多かった KENSAL GREEN 地区とは大きな違いがあった。道路の両側の関係ではシンメトリーまたはそれに近い関係にあるものが 45% と多くあった。

1. はじめに

本稿はロンドンに一般にあり都市景観の主要な要素となっている TERRACED HOUSE について町並み構成パターンを中心に調査した結果について記すものである。これに類する研究は FULHAM 地区を対象に「ロンドンの中・小規模 TERRACED HOUSE 研究ノート(1)」を会津大学短期大学部研究年報第 54 号に、Kensal Green 地区を対象に「ロンドンの中・小規模 TERRACED HOUSE 研究ノート(2)」を会津大学短期大学部研究年報第 65 号に発表した。(前者については「Terraced House In London

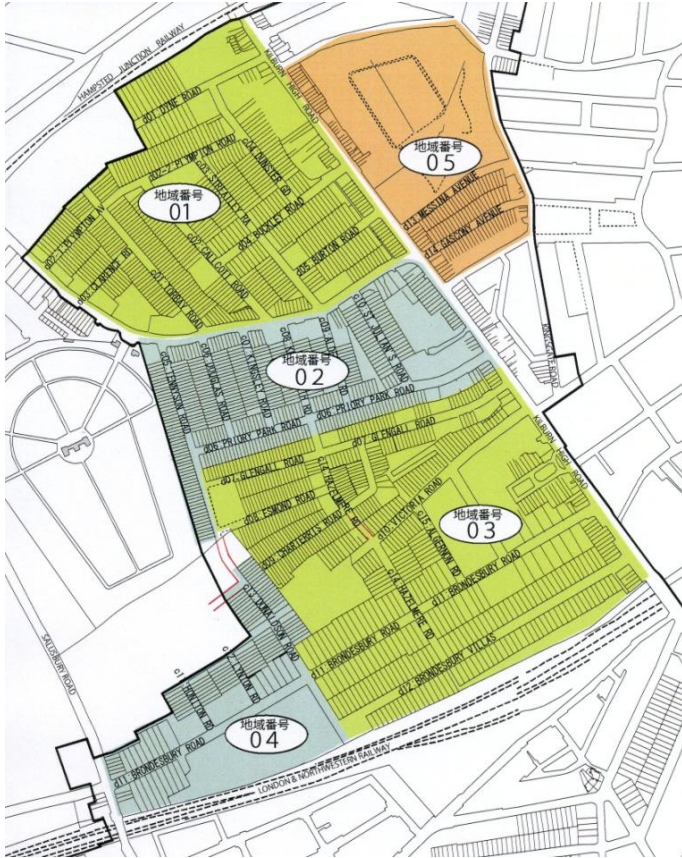


図-01:調査対象地区の範囲と本稿での地域区分

Façade composition analysis from townscape viewpoint」Third Asia Design Conference Proceeding 1998.10 で論文としてまとめている。)今回はロンドン西部の Queens Park 駅の北東側の地区で、南を LONDON & NORTHWESTERN RAILWAY、北を HAMPSTED JUNCTION RAILWAY、西を SALUSBURY ROAD、そして東は KINGSGATE ROAD 並びに KILBURN HIGH ROAD で囲われた範囲(図-02、以下 KILBURN HIGH ROAD 地区と呼ぶ)を対象とした。結果として 30 街路(家並としては 60) 1384 住戸についてのデータを集集し分析を行なった。また、街路景観デザイン分析の方法について幾つか試みることも本稿の目的である。

2. 調査方法

調査方法は前回と同様に「ORDNANCE SURVEY MAPS, 25inches to the mile」の復刻版を用い、そこに描かれた建物の現在の様子を記録して回るといものである。はじめに地図に描かれた建物が現存するかをチェックすることからはじめ、次に建物自体の細部観察へと入る。そのために街路名称、住戸番地、玄関の形、壁の色、屋根の形等が記入できる調査用紙を作成し、地図を基に対象地区を歩き、各項目をチェックした後、できるだけ正面から各住戸の写真を撮り、それに基づいて概略立

面図を作成し家並構成等を検討する。なお、一々立ち止まってカメラを向けると拒否反応を示す住人があることと効率的に調査を進めるために、一部ビデオカメラを使用した。

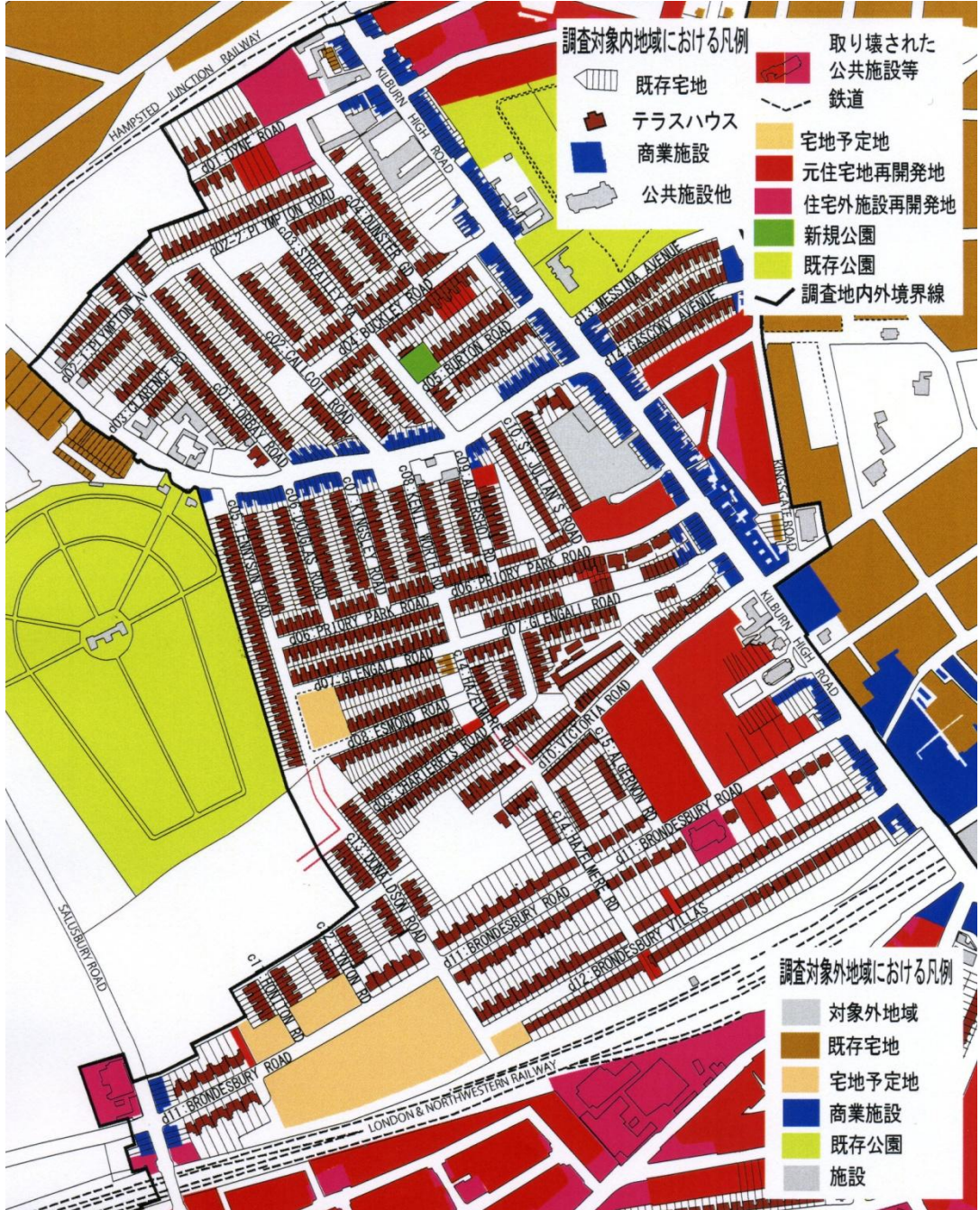


図-02: 調査対象地区並びに周辺の現状

3. 研究方法

研究方法も基本的には前回の方法を踏襲し、各住戸の接続の仕方、並べ方そして全体としての構成について研究をすすめた。そのためにこれまでと同様に「家並立面図」、「家並周辺関係分析図」と「家並分類一覧」を作成した。「家並周辺関係分析図」はより分かり易くするために前回とは異なるインデックスの作成方法を試みた。さらに分析をよりよく行い表現するために今回は「住戸ファサードリスト」と「街路両側におけるファサードデザイン関係図」を作成した。

それぞれの内容は後述するとして、ここでは立面図の作成方法について説明する。

立面図を描くに当たっては、家並構成を見るという目的を明確にするために必要な要素に絞って描くこととした。具体的には以下のような基準を作成し、それに基づき細部の装飾を取り除き、できるだけ概念化（記号化）した形で対象を描いた。また周囲の街区との関係性を見るために住戸の特徴を記号化して平面に配置した図を作成した。

- ・各住戸の間口は一律とし各戸の相違は考慮しない。（ただし、同一タイプで 1 戸のみ異なる場合などは別とする。）
- ・階高は各階毎に一定とする。
- ・玄関を除き開口部は描写しない。（ゲート状に街路抜けと成っている場合等はその都度考慮する。）
- ・ヴァルコニー、玄関への階段（BASEMENT がある場合）、BAY WINDOW、BOW WINDOW 等は記号化して描く。
- ・軒のどる形か、パラペット形かの別を記号化して描く。
- ・玄関の形の別はポーチ形式、張り出し庇、これらの無いものを描き分ける。
- ・戸境壁は表面にでてこない場合でも住戸単位を明確にするために破線で描写する。

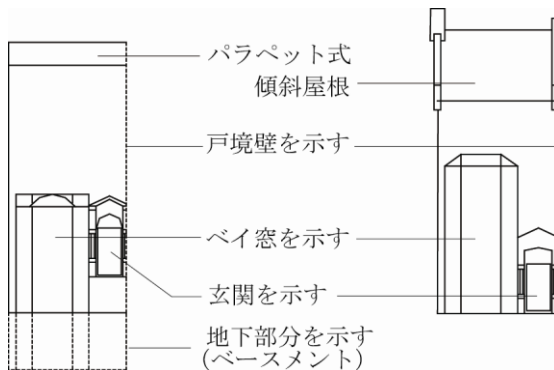


図-03：家並立面作成基準を適用した立面図の例

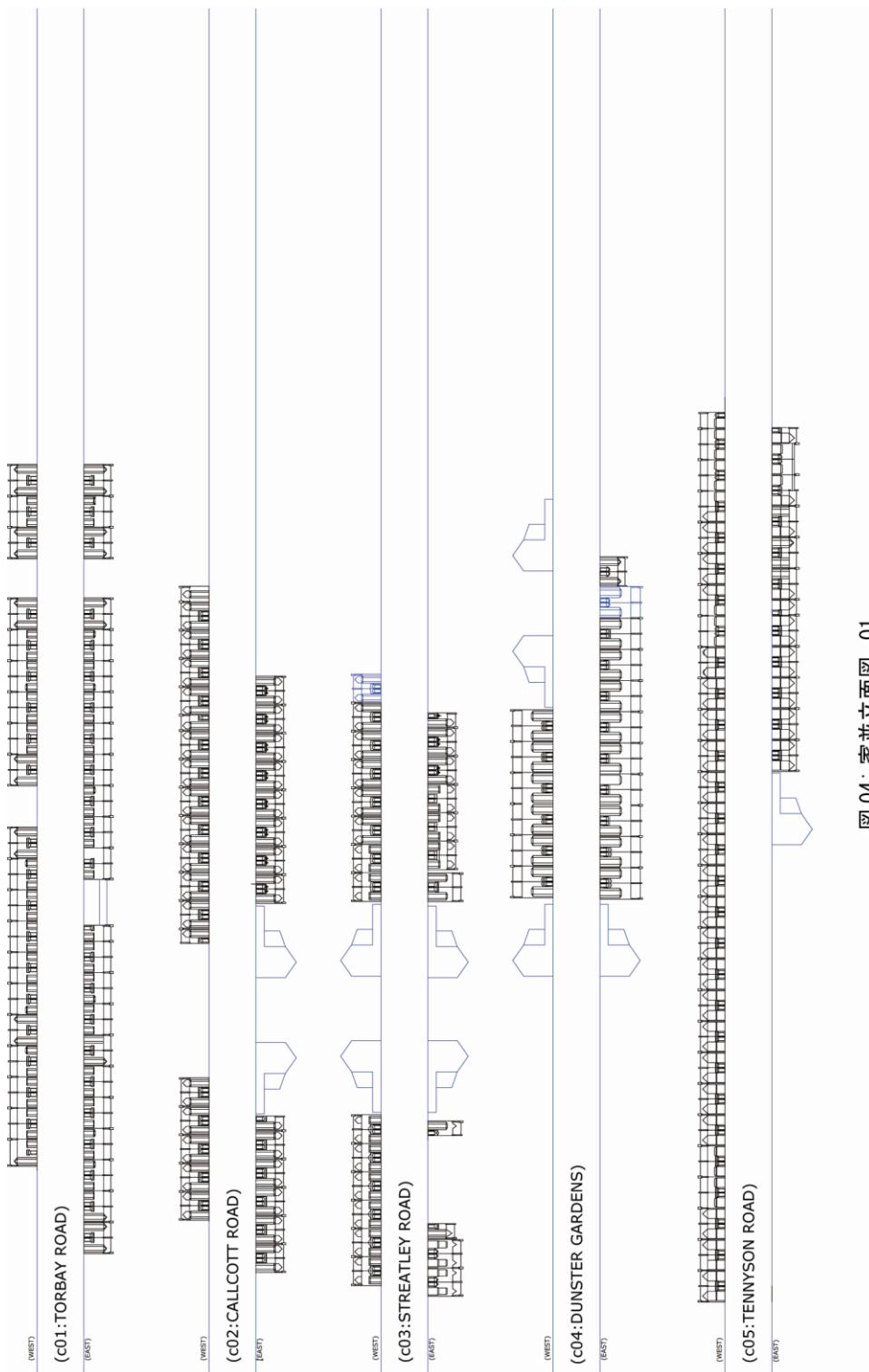


图 04: 家並立面图_01

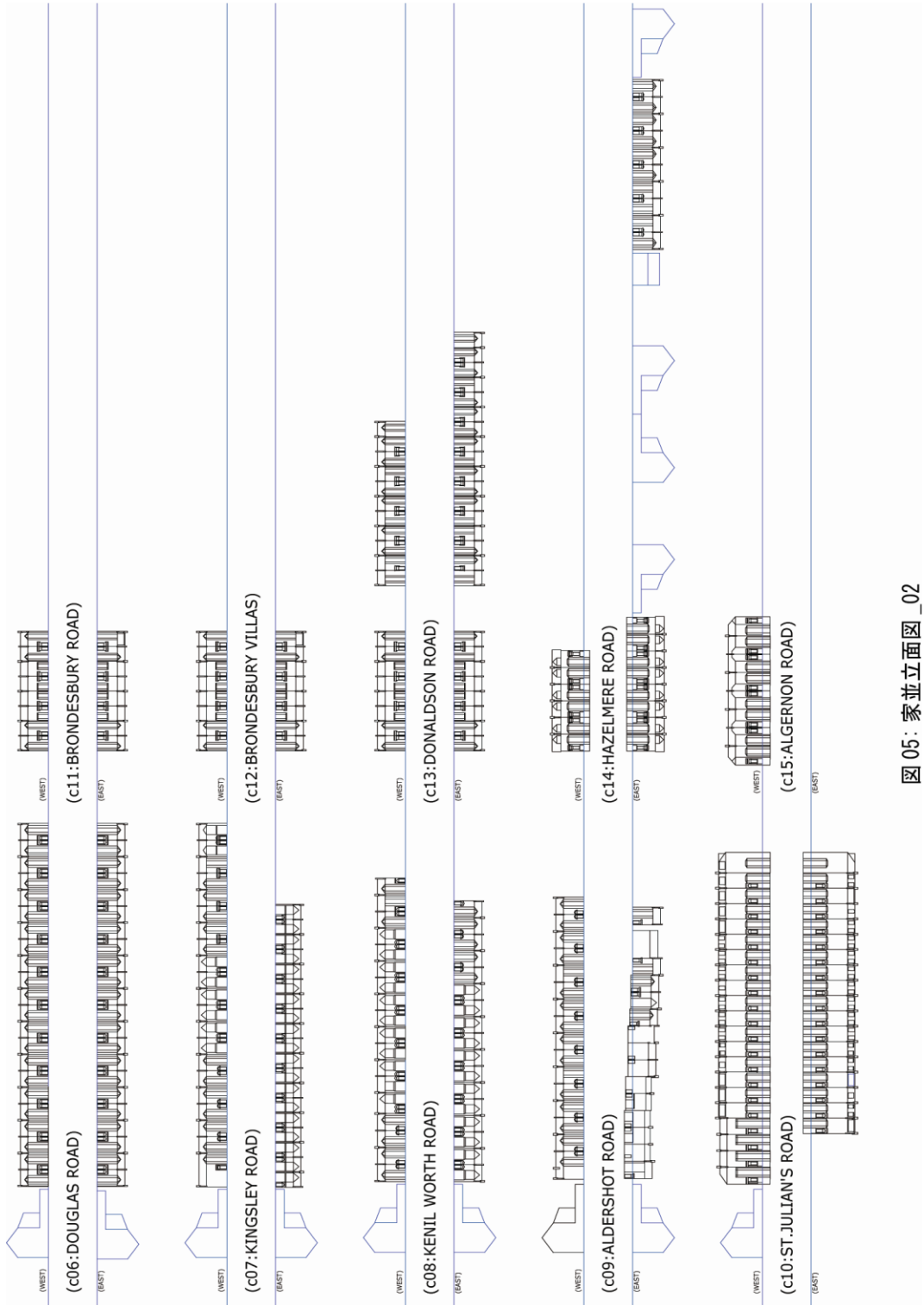


図 05: 家並立面図_02

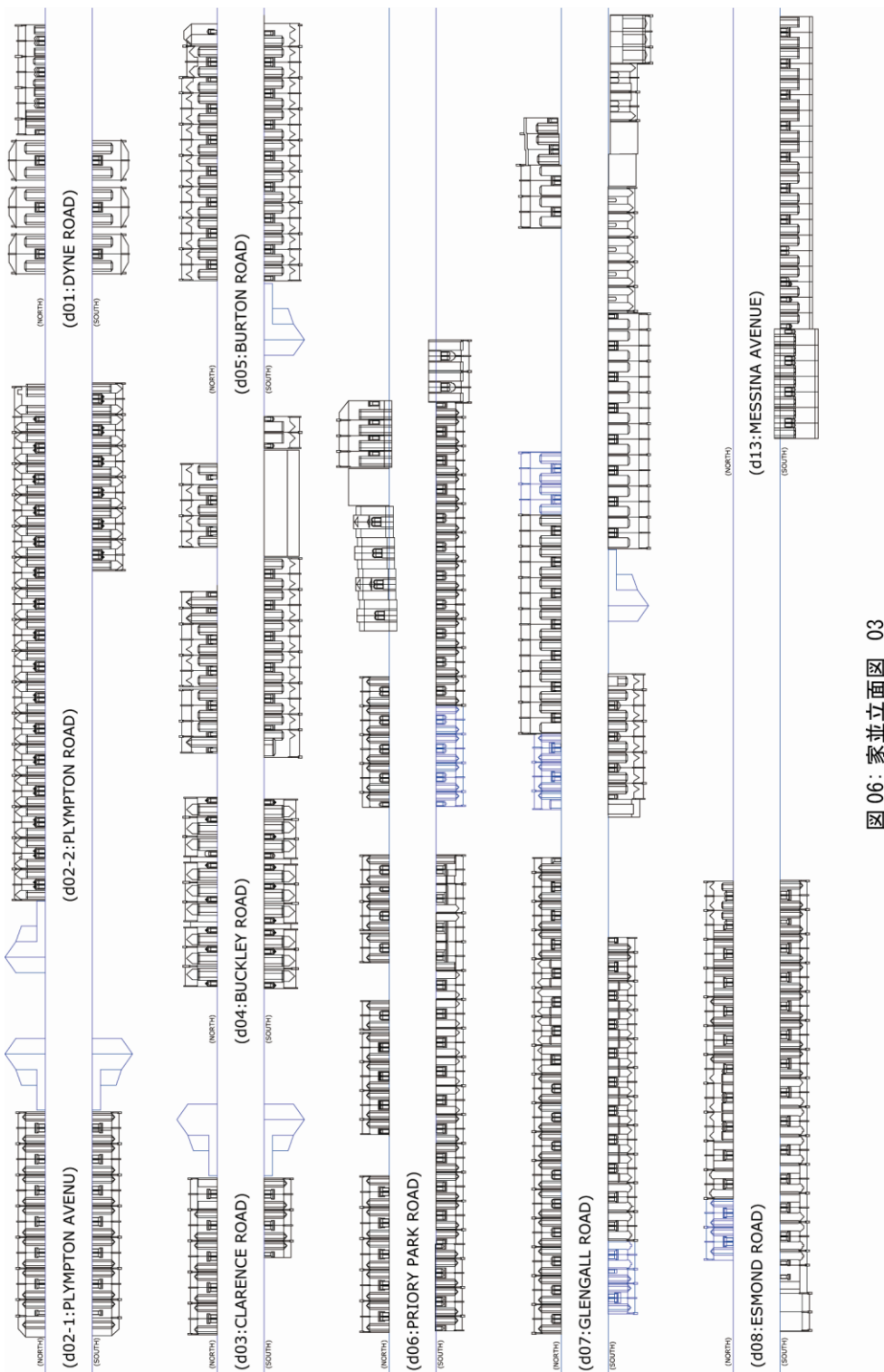


图 06: 家並立面图_03

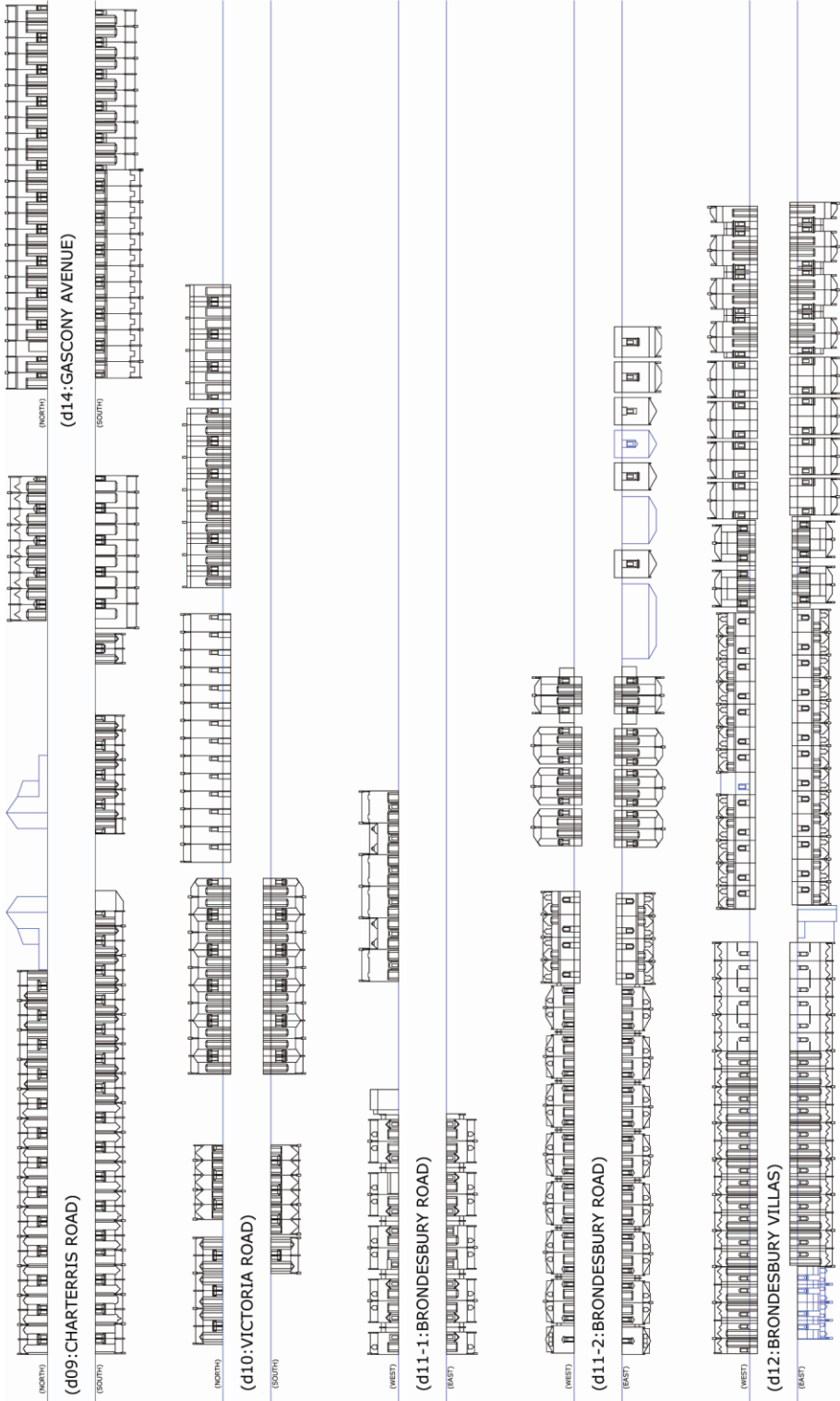


図 07: 家並立面図_04

4. 住戸ファサードの分類

家並を分析するに当たっては住戸ファサードの分類を試みた。結果は表-01 から 06 に示す街路である。分類に当たっては階数とベースメントの有無を第 1 指標、壁面の形を第 2 指標そしてベイ窓の形を第 3 指標として分類することで基本形を定め、玄関部分のデザインの違いはデザイン的变化とした他、補修によることが明らかなベイ窓の変化は参考までに別分類とした。また、側面に玄関を持つものやダブルフロント（1 住戸正面に 2 つのベイ窓を有す）など家並端部に見られる変化形も別分類とした。

その結果、基本形で 66 種となり、細分類では 157 種となった。最も多く見られた基本形は、2 階建に 2 層の寄棟屋根のベイ窓が付いたデザイン[A01]であり、26 のバリエーション（主たるもの 19 種、補修によるもの 3 種、端部での変形 4 種）がみられた。次いで[A17]の 6 種（主たるもの 4 種、補修によるもの 2 種）と[D03]の 6 種（主たるもの 5 種、端部での変形 1 種）、[C07]の 5 種（主たるもの 5 種）、[B08]の 4 種（主たるもの 4 種）と[B04]の 4 種（主たるもの 3 種、端部での変形 1 種）のバリエーションがみられた。

表-01:住戸ファサードリスト_1

































2階建 ベースメント無						
長方形の壁						
記号	A01	A02	A03	A04	A05	A06
基本形	 *01 (d03)(d02-1)(c01)(c05)	 *01 (d01)	 (d03)	 *01 (d01)	 (d01)	 *01 (d06)(d07)
デザイン的变化	 *02 (d07)(d09)	 *03 (d06)	 *04 (d07)(c04)(c09)	 *05 (c08)	 *06 (d10)	 *07 (d10)
	 *08 (d06)	 *09 (d06)	 *10 (d06)	 *11 (d06)	 *12 (c07)	 *13 (c08)
	 *14 (d06)	 *15 (d06)	 *16 (c06)	 *17 (c07)	 *18 (c08)	 *19 (c13)
破損等 での 変化	 *20 (c05)(c07)	 *21 (c08)	 *22 (d08)(d09)(c11)(c12)(c13)			 *04 (c09)
端部 での 変化	 *23 (d02-1)	 *24 (c07)	 *25 (d08)	 *26 (c09)		

表-02:住戸ファサードリスト_2


















記号	2階建 ベースメント無								
	長方形の壁								
	A07	A08	A09	A10	A11	A12	A13	A14	A15
基本形	 *01 (c05)	 (c05)	 *01 (c05)	 *01 (c14)	 (c09)	 *01 (c09)	 *01 (c07)(c08)	 (d06)	 *01 (d07)
デザイン 的 変 化	 *02 (c05)		 *02 (c05)			 *02 (c09)			 *02 (d07)
破 損 等 の 変 化			 *03 (c07)	 *02 (c14)			 *02 (c08)		 *03 (d08)

表-03:住戸ファサードリスト_3






















記号	2階建 ベースメント無									
	長方形の壁			凹凸のある壁(domer や lucanerを含む)						
	A16	A17		A18	B01	B02	B03	B04	B05	
基本形	 (d07)	 *01 (d08)	 (d07)	 (d09)	 (d07)	 *01 (d08)	 (d10)	 *01 (c03)	 *01 (c02)	 (c03)
デザイン 的 変 化		 *02 (d08)	 *03 (d09)	 *04 (d09)		 *02 (d08)		 *02 (c03)	 *02 (c02)	
破 損 等 の 変 化		 *05 (d09)	 *06 (d09)					 *03 (c03)	 *03 (c03)	
端 部 の 変 化								 *04 (c02)		

表-04:住戸ファサードリスト_4





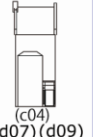
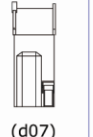
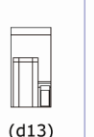
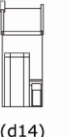
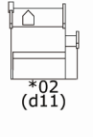

記号	2階建 ベースメント無			3階建以上 ベースメント無				
	凹凸のある壁(domer や lucanerを含む)			長方形の壁				
	B06	B07	B08	C01	C02	C03	C04	C05
基本形	 (d11)	 *01 (d11)	 *01 (d11)	 (d01)	 (c04) (d07)(d09)	 (d07)	 (d13)	 (d14)
デザイン的変化			 *02 (d11)					
端部の変化		 *02 (d11)						

表-05:住戸ファサードリスト_5

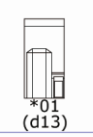
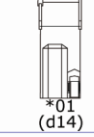



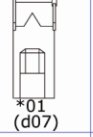
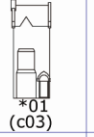
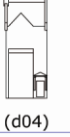


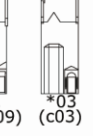

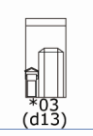
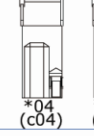

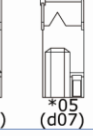

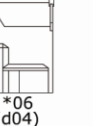
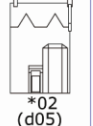
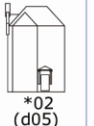

































記号	3階建以上 ベースメント無							
	長方形の壁		凹凸のある壁(domer や lucanerを含む)					
	C06	C07	D01	D02	D03	D04	D05	D06
基本形	 *01 (d13)	 *01 (d14)	 (d11-2)	 (d04)	 *01 (d04)(d05)	 *01 (d07)	 *01 (c03)	 (d04)
デザイン的変化	 *02 (d13)	 *02 (c03)			 *02 (d07)(d09)	 *03 (c03)		
	 *03 (d13)	 *04 (c04)	 *05 (c04)		 *04 (d09)	 *05 (d07)		
端部の変化					 *06 (d04)	 *02 (d05)	 *02 (d05)	

表-06:住戸ファサードリスト_6, 7, 8

記号	3階建以上 ベースメント無					2階建 ベースメント有			
	凹凸のある壁(domer や lucanerを含む)					凹凸のある壁			
	D07	D08	D09	D10	D11	E01	E02	E03	E04
基本形	 (d05)	 *01 (d02-1) (d02-2)	 *01 (d04)	 (d14)	 (d07)	 *01 (c15)	 (c14)	 (d06)	 *01 (d06)
デザイン的变化									 *02 (d06)
端部での变化		 *02 (d02-2)	 *02 (d04)			 *02 (c15)			

記号	3階建以上 ベースメント有								
	長方形の壁								
	F01	F02	F03	F04	F05	F06	F07	F08	F09
基本形	 (d10)	 (d13)	 *01 (c10)	 *01 (c10)	 *01 (d06)	 (d12)	 (d11-2)	 (d11-2)	 (d10)
端部での变化			 *02 (c10)	 *02 (c10)	 *02 (d06)				

記号	3階建以上 ベースメント有							
	長方形の壁			凹凸のある壁(domer や lucanerを含む)				
	F10	F11	F12	G01	G02	G03	G04	
基本形	 (d12)	 (d10)	 (d12)	 (d12)	 (d12)	 (d10)	 *01 (d12)	
デザイン的变化							 *02 (d11-2)	

飾りの付いた簡明なデザインのもので 4 本の街路で両側に用いられていた。次いで[A01*01] が 7 家並で 3 本の街路で両側に用いられていた。[A04*04]が 6 家並で 3 本の街路の両側、[A17*01]と [D08*01]が 4 家並でそれぞれ 2 本の街路の両側、[A13*01]、[A17*02]、[C02]、[D03*01]は 3 家並に用いられていたが、[C02]を除いてその内 2 種は 1 本の街路の両側に用いられていた。[C02]は 3 家並とも別の街路であった。2 つの家並で用いられているものは 40 種あったが、36 種は同じ街路で用いられており、異なった街路で用いられていたのは[A01*02]、[A01*05]、[B04*01]、[D03*02]の 4 種であった。これらのことから TERRACED HOUSE の建設の多くが景観を意識して街路を挟む形で開発が進められていたことが窺われる。

そのことは図-08 から窺われる。図-08 はファサードデザインという観点からみた街路両側の関係を示すものであり、同一街路で上下に●や○が並んでいるものは同一のデザインが用いられていることを示す。例えば BRONDESBURY VILLAS (d12)では、6 種類のデザインが北側と南側で用いられていることを示しており、PRIORY PARK ROAD (d06)では南北それぞれに 7 種類のデザインを用いているがお互いに同じものは無いことを示している。これによると 55 組のデザインが街路の両側で用いられており、1 本の街路の両側で用いられているファサードデザインの共通性に着目したところ、その半数以上が共通であった街路は 30 本の街路のうち 15 本であることから先のことが言えよう。

しかし、これに逆行するものもある。3 本の街路においては両側に共通するデザインが無いのである。これらを含め共通性の薄い街路をピックアップすると STREATLEY ROAD (c03 : 0/8)、TENNYSON ROAD (c05 : 7/2)、KINGSLEY ROAD (c07 : 2/7)、ALDERSHOT ROAD (c09 : 0/9)、BUCKLEY ROAD (d04 : 2/7)、BURTON ROAD (d05 : 1/4)、PRIORY PARK ROAD (d06 : 0/14)、GLENGALL ROAD (d07 : 2/14)、ESMOND ROAD (d08 : 1/8)そして CHARTERRIS ROAD (d09 : 3/12)が挙げられるが、STREATLEY ROAD (c03)には BUCKLEY ROAD (d04)と BURTON ROAD (d05)が接続しており、TENNYSON ROAD (c05)には PRIORY PARK ROAD (d06)、GLENGALL ROAD (d07)そして ESMOND ROAD (d08)が接続して PRIORY PARK ROAD (d06)には KINGSLEY ROAD (c07)と ALDERSHOT ROAD (c09)が、GLENGALL ROAD (d07)には CHARTERRIS ROAD (d09)が接続しているなど、この傾向を示す街路は互いに関連がある点は意図的なものであるかどうかは不明であるが、事実として興味深いものがある。(街路名の後ろの () 内の分数は分母が街路に面する家並に使用されているファサードデザインの種類、分子はそのうち両側に共通なものを示す)

その他 KILBURN HIGH ROAD 地区の住戸ファサードデザインの特色としてはファサード上部に凹凸(分類では lucaner (*1) や dorma (*2)もここに含めている)の付くものが多いことである。前回報告した KENSAL GREEN 地区では家並のアクセントとして 2、3 例が見られただけであったことも考え合わせるとこの地区の特徴の 1 つに挙げることができよう。また、ファサードリストの[A08]、[A10]、[A13]、[A16]そして[A17]に見られるベイ窓も他の地区では見られなかったデザインであり、特徴の 1 つである。

5. 家並の分類

① 家並の構成単位

家並の構成単位の分類は前回は踏襲して以下のようにした。

(a). 同じ向きで単に並べていくもの、または玄関が隣り合わないもの — 1家並。

今回の例では ST. JULIAN' S ROAD (E)&(W) (c01 / 図-05)等にみられた。

(ab)あるいは(ba). 家並に(a)の要素をある塊で部分的に含むもの — 5家並。

これは今回初めて設けた分類で、BUCKLEY ROAD (N) (d04 / 図-06)等にみられた。このこともこの地区の特徴といえよう。

(ab)と(ba)の違いは家並の中で(a)が主流であるものが(ab)で(b)が主であるものが(ba)と記している。

(b). 鏡映しの2戸を組み合わせたもの — 53家並。

TERRACED HOUSE の構成単位としてはもっとも基本的な形であり、今回は TORBAY ROAD (E)&(W) (C01 / 図-04)を始め88.3%がこのタイプであった。

(c). 鏡映しの2戸を組み合わせて意味の感じられる別の形を成すもの — 0家並。

今回はみられなかった。

(d). (b)と(c)を組み合わせて更に大きなパターンをなすもの — 0家並。

今回はみられなかった。

(e). (b)または複数の(b)と別の1戸を組み合わせて大きなパターンをなすもの — 0家並。

今回はみられなかった。

(f). (b)または複数の(b)と別の複数戸を組み合わせて大きなパターンをなすもの — 0家並。

今回はみられなかった。

以上7つの分類のうち3つの傾向しか見られない。表-07は地域ごとにそれをまとめたものである。(a)や(b)のみで構成される家並は概して単調なものとなる傾向にあるが、その単調さを破るものとして「4. 住戸ファサードの分類」で述べたようにファサード上部に凹凸の付くものを多用しているともいえよう。

今回の地区では TERRACED HOUSE を考案した Inigo Johnes が意図した家並全体で宮殿のような1つの大きな建物を成すものは見られなかった。

表-08は前回までの地区との比較である。家並構成単位については(b)の鏡写しの2戸を組み合わせたものがいずれの地区でも大多数を占めているが、KILBURN HIGH ROAD 地区では(b)タイプが88.3%と圧倒的多数であり、(c)、(d)、(e)、(f)タイプがまったく見られなかったこともこの地区を特徴付けている。

表-07：家並構成単位 地域間の比較

地域番号	構成単位型	a	ab	b	c	d	e	f
01		0	1	19	0	0	0	0
		0%	5%	95%	0%	0%	0%	0%
02		2	1	11	0	0	0	0
		14%	7%	79%	0%	0%	0%	0%
03		0	2	13	0	0	0	0
		0%	13%	87%	0%	0%	0%	0%
04		0	1	7	0	0	0	0
		0%	13%	88%	0%	0%	0%	0%
05		0	0	3	0	0	0	0
		0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%

表-08：家並構成単位 3地区の比較

地区名	構成単位型	a	ab	b	c	d	e	f
FLUHAM 地区		7		117	14	5	6	4
		5%		76%	9%	3%	4%	3%
KENSAL GREEN 地区		2		100	9	8	15	0
		1%		75%	7%	6%	11%	0%
KILBURN HIGH ROAD 地区		2	5	53	0	0	0	0
		3%	8%	88%	0%	0%	0%	0%

② 一連の家並に用いられる立面デザインの種類

1つの家並に何種類の立面デザインが用いられているのかをみたのが表-09、10である。以下にこの点から見た各地域の特色について記す。

・地域番号 01 地域は 45%が 1 種類の立面デザインで構成されている。また道路などで分割される区画ごとに見ていくとこの傾向は更に強いことが判明し、この地区は同一デザインで統一的に家並を構成する傾向にあるということができよう。

・地域番号 02 地域は 36%が 1 種類の立面デザインで構成されているとは言うものの半数以上が 3 種類以上の立面デザインを用いて構成されているのが特徴である。道路などで分割された同一区画内においても異なったデザインが用いられているが、その方法は塊で配置するもので、家並全

体のデザイン構成的な配慮は窺われない。

・地域番号 03 地域は多種類の立面デザインを用いる傾向は更に強くなり、7種類で構成されるものが27%と一番多くなっているのが特徴である。道路などで分割された同一区画内でも複数の立面デザインが塊として用いられており、町並み全体としての調和といった観点は見出せない。

表-09：一連の家並に用いられる立面デザインの種類 地域間の比較

(表-15の「住戸種類数」欄の分子に示された数値による。)

地域番号	種類数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
01		9	5	4	1	0	0	1	0	0	0
		45%	25%	20%	5%	0%	0%	5%	0%	0%	0%
02		5	2	2	2	1	1	1	0	0	0
		36%	14%	14%	14%	7%	7%	7%	0%	0%	0%
03		2	1	1	3	0	3	4	1	0	0
		13%	7%	7%	20%	0%	20%	27%	7%	0%	0%
04		1	6	1	0	0	0	0	0	0	0
		13%	75%	13%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
05		1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
		33%	33%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

表-10：一連の家並に用いられる立面デザインの種類 3地区の比較

地区名称	種類数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
FLUHAM 地区		97	38	14	4	0	0	0	2	1	0
		62%	24%	9%	3%	0%	0%	0%	1%	1%	0%
KENSAL GREEN 地区		45	44	31	6	5	2	0	0	0	0
		34%	33%	23%	5%	4%	2%	0%	0%	0%	0%
KILBURN HIGH ROAD 地区		18	15	9	6	1	4	6	1	0	0
		30%	25%	15%	10%	2%	7%	10%	2%	0%	0%

・地域番号 04 地域は家並の数が少ないので統計的処理には適しないと思うが、75%が2種類の立面デザインで構成されており、しかも両端に2層のベイ窓を持ったものを配し、中間部は1層のベイ窓にするといった家並全体での美的構成を考慮しているものが多い点の特徴である。

・地域番号 05 地域は非常に狭く、3列の家並しかないが、1種類のものから3種類のものまで、それぞれが別の構成となっており興味深い。

前回までに報告した他地域と比較してみたのが表-10である。この表からもこの地域が多様な立面デザインの住戸で構成される家並が多いことが見て取れる。KENSAL GREEN 地区も数値の上では比較的同様の傾向を示しているが、KENSAL GREEN 地区の場合は家並にリズム感を与えるためや、家並全体の構成を美的にするためにベースとなるものと異なったデザインが用いられているのに対し、この地区では異なったデザインがそれぞれ塊となって配置されていて全体的視点が見られない点が KENSAL GREEN 地区とは異なっている。

③ 家並の全体構成

次に全体の構成については、前回までは以下に示す (ア) から (キ) の7つに分類して傾向をみてきたが、今回はこれに (カ) の要素を部分的に含む (カ') を加えることとする。

(ア). (a) または (b) など単一のパターンを連続させるもの - 19家並。

今回の例では DOUGLAS ROAD (E)&(W) (c06 / 図-05) にみられた。

(イ). 家並を数区に分けそれぞれに別のパターンを並べるもの(それぞれの群は街路等で分節されている) - 7家並。

今回の例では BUCKLEY ROAD (N)&(S) (d04 / 図-06) にみられた。

(ウ). 家並を数区に分けそれぞれに別のパターンを並べるもの(街路等による分節なし)
- 26家並。

今回の例では TENNYSON ROAD (E)&(W) (c02 / 図-04) にみられた。

(エ). 家並を数区に分けそれぞれに別のパターンを並べることで家並にリズムを生み出すものや一つの形を成すもの - 2家並。

今回の例では TORBAY ROAD (E)&(W) (c01 / 図-04) にみられた。

(オ). 同一デザインで構成される家並を数区に分け分節点に別のパターンを配するもの
- 0家並。

今回はみられなかった。

(カ). 同一デザインで構成される家並を数区に分け分節点に別のパターンを配し、全体として象徴的な形態を形作るもの - 4家並。

今回の例では HONTON ROAD (E)&(W) (c11 / 図-05) にみられた。

(カ') . 家並全体ではないが、道路などで分割された区画単位で (カ) の特徴が見られるもの
- 2家並。

今回の例では DONALDSON ROAD (E)&(W) (c13 / 図-05) にみられた。

(キ). 複数の住戸で象徴的な形態を作りそれを連続して配置するもの - 0家並。

今回はみられなかった。

表-11：家並全体構成 地域間の比較

地域番号 全体構成型	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	カ'	キ
01	9	3	6	2	0	0	0	0
	45%	15%	30%	10%	0%	0%	0%	0%
02	5	1	8	0	0	0	0	0
	36%	7%	57%	0%	0%	0%	0%	0%
03	3	2	10	0	0	0	0	0
	20%	13%	67%	0%	0%	0%	0%	0%
04	1	1	0	0	0	4	2	0
	13%	13%	0%	0%	0%	50%	25%	0%
05	1	0	2	0	0	0	0	0
	33%	0%	67%	0%	0%	0%	0%	0%

表-12：家並全体構成 3地区の比較

地域番号 全体構成型	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	カ'	キ
FLUHAM 地区	108	7	32	5	0	0		0
	71%	5%	21%	3%	0%	0%		0%
KENSAL GREEN 地区	63	22	14	4	20	9		2
	47%	16%	10%	3%	15%	7%		1%
KILBURN HIGH ROAD 地区	19	7	26	2	0	4	2	0
	32%	12%	43%	3%	0%	7%	3%	0%

地域別に見ていくと以下のような特徴が見られる。

- ・地域番号 01 地域は半数近く（45%）が（ア）の構成法でなされており（ウ）の構成をとるものも 30%程ある。比較的単調な家並で構成される地域といえる。
- ・地域番号 02 地域は 01 地域とは逆で 57%が（ウ）の構成となっており、（ア）の構成は 36%であり、比較的变化に富んだ家並で構成される地域といえる。

・地域番号 03 地域は 67%が (ウ) の構成となっておりこれに (イ) の 13%を加えると 80%となる。この地域は大変変化に富んだ家並で構成されているといえる。

・地域番号 04 地域は (カ) と (カ') を併せると 75%となり、家並に全体的は美的配慮がなされたもので構成される地域といえる。

・地域番号 05 地域は数が少なく性格付けをするのは難しいが、(ア) や (ウ) の構成をとっており、形態的な全体構成に美的配慮がなされているとは言い難い地域といえる。

以上に記したように KILBURN HIGH ROAD 地区も特徴のある地域の集合体であり全体的な特徴を導き出すのは難しいが、前回までに報告した地区との比較で述べるならば、程度の差はあれ前回までの 2 地区は (ア) が最大値を占めていたのに対し、この地区では (ウ) が最大である点が特徴といえよう。また、(オ) がまったく無かった点も KENSAL GREEN 地区との比較では大きな相違点である。

④ 街路両側の家並の関係

さて、最後にこれらの家並は道路に沿って建つわけである。以上はそれぞれの家並単独での状態を見てきたが、道路の両側に立ち並ぶ家並の関係をみていくことにする。家並の両側の関係は前回の報告までは (0) から (4) の 5 分類で行ってきたが、今回はそれぞれに共通するものを有するが相違点もあるものを「」の形で分類し、下に示す 10 分類で見ていくこととする。

(0). シンメトリーを感じるもの — 3 街路

今回の例では DOUGLAS ROAD (c06/ 図-05)にみられた。

(0') . 道路で分けられた区画単位でシンメトリーを感じるものや基本的にシンメトリーであるのだが片方が延びているなどして完全なシンメトリーではないもの — 10 街路

今回の例では TORBAY ROAD (c01/ 図-04)にみられた。

(1). 単位の並び方が同じ — 2 街路

今回の例では PLYMPTON ROAD (d02-2/ 図-06)にみられた。

(1') . 基本的に単位の並び方が同じだが端部において差異がみられるもの — 2 街路

今回の例では DUNSTER GARDENS (c04/ 図-04)にみられた。

(2). 同じ並び型であるが順序が逆である — 0 街路

今回はみられなかった。

(2') . 大筋(2)の条件を満たすが端部に余分なものが付いている — 0 街路

今回はみられなかった。

(3). 同じ構成単位であるが並び方には関係性が見られない — 1 街路

今回の例では KENIL WORTH ROAD (c08 / 図-05)にみられた。

(3') 両側に共通の構成単位が2種類以上含まれているが、並べ方には関係性が見られない

－ 4街路

今回の例では TENNYSON ROAD (c05 / 図-04)にみられた。

(4). 構成単位も異なり、関係性は見られない － 4街路

今回の例では STREATLEY ROAD (c03/ 図-04) にみられた。

(4') 両側とも複数の単位で構成されているが共通の構成単位は1種類だけある － 3街路

今回の例では CALLCOTT ROAD (c02/ 図-04)にみられた。

表-13：街路両側の家並の関係 地域間の比較

地域番号 両側関係型	0	0'	1	1'	2	2'	3	3'	4	4'
01	0	4	2	1	0	0	0	1	1	1
	0%	40%	20%	10%	0%	0%	0%	10%	10%	0%
02	1	1	0	0	0	0	1	1	1	2
	14%	14%	0%	0%	0%	0%	14%	14%	14%	29%
03	0	3	0	1	0	0	0	2	1	0
	0%	43%	0%	14%	0%	0%	0%	29%	14%	0%
04	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	50%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
05	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%

地域別に見ていくと以下のような特徴が見られる。

- ・地域番号 01 地域は(0')が40%を占め(1)や(1')も多いことからシンメトリーや同一構成要素を用いた街路が主となっており、統一的な景観を考慮した地域であるといえよう。
- ・地域番号 02 地域は(4')が2街路で29%を占めてはいるものの(0)、(0')、(3)、(3')、(4)も1街路ずつあり、どちらかという全体としては街路景観の統一といった考え方は見られない地域といえよう。
- ・地域番号 03 地域は(0')が3街路43%を占め(1')も1街路14%あるが、(3')と(4)で43%あり、景観に配慮した街路とそうでない街路が混在している地域といえよう。
- ・地域番号 04 地域は(0)と(0')とが各50%であり、強く統一とか、シンメトリーとかが意識された地域といえる。

・地域番号 05 地域は両側に家並を有するのは 1 街路であり、このような分析には馴染まない。

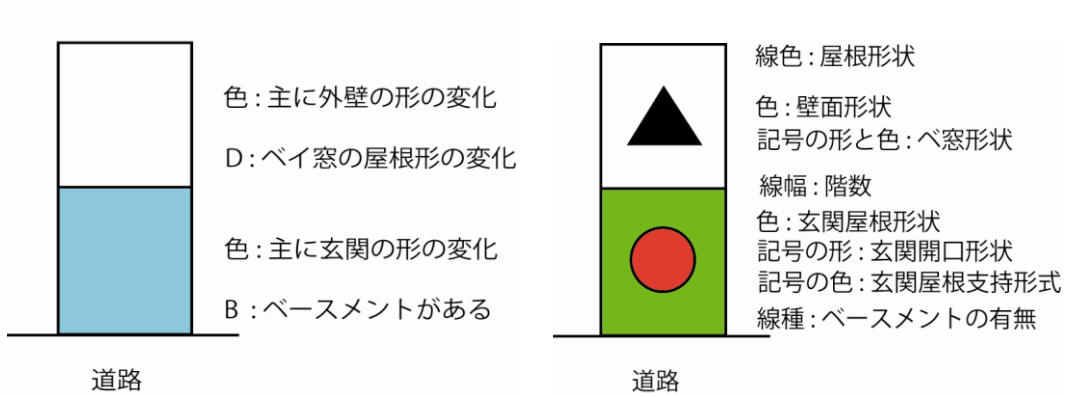
表-14：街路両側の家並の関係 3 地区の比較

地域番号 両側関係型	0	0'	1	1'	2	2'	3	3'	4	4'
FLUHAM 地区	10		30		0		4		44	
	11%		34%		0%		5%		50%	
KENSAL GREEN 地区	13		0		1		31		20	
	20%		0%		2%		48%		31%	
KILBURN HIGH ROAD 地区	13		4		0		5		7	
	45%		14%		0%		17%		24%	
	3	10	2	2	0	0	1	4	4	3
	10%	34%	7%	7%	0%	0%	3%	14%	14%	10%

前回までに報告した地区との比較では Fluham 地区が(4)の街路両側の家並で共通の構成要素を持たない街路が半数に上ることが特徴であるのに対し、この地区は(4)は 3 地区では最も少ない 24%しかなく、両側の調和といったことが意識されている街路が多いことが窺われる。それは(0)や(0')といったシンメトリー系が 45%と半数近くになることにも強く現れている。

5. 家並デザインと周辺街区との関係

「家並周辺関係分析図」を作成して、家並と周辺街区との関係を俯瞰するという試みは前回（ロンドンの中・小規模 TERRACED HOUSE 研究ノート(2)）ではじめて行った。そこでは次ページ図の左のように上下 2 段のスペースは色で外形の違いや玄関デザインの違いを表し、そこに記された文字によってベースメントの有無やベイ窓の屋根の形を示すことを基本した上で、1 住戸の街路側デザイン全体の違いを表したために 136 のインデックスが必要となった。家並と周辺の関係を知る上では有効であったが、その家並を構成する住戸がどのようなデザインであるかを知るには 136 のインデックスの中に求めねばならず煩雑であった。今回は同図右に示すように、壁面形状、ベイ窓形状、屋根形状並びに階数、玄関屋根形状、玄関開口形状、玄関屋根型支持形式、ベースメントの有無の 8 項目についてそれぞれを分類し、その組み合わせで住戸ファサードのデザインを表現し、家並と周辺の関係並びにそれを構成する住戸のデザインをより理解しやすいように工夫した。それぞれの記号、色彩の意味は図-08 に示すとおりであるが、壁面形状を色で 13 種、ベイ窓形状を色と記号の組み合わせで 22 種、屋根形状を線の色で 2 種、階数を線の太さで 2 種、玄関屋根形状を色で



6種、玄関開口形状を4種、玄関屋根型支持形式を色彩で3種に分け、更にベースメントの有無を線種で2種に分けた。

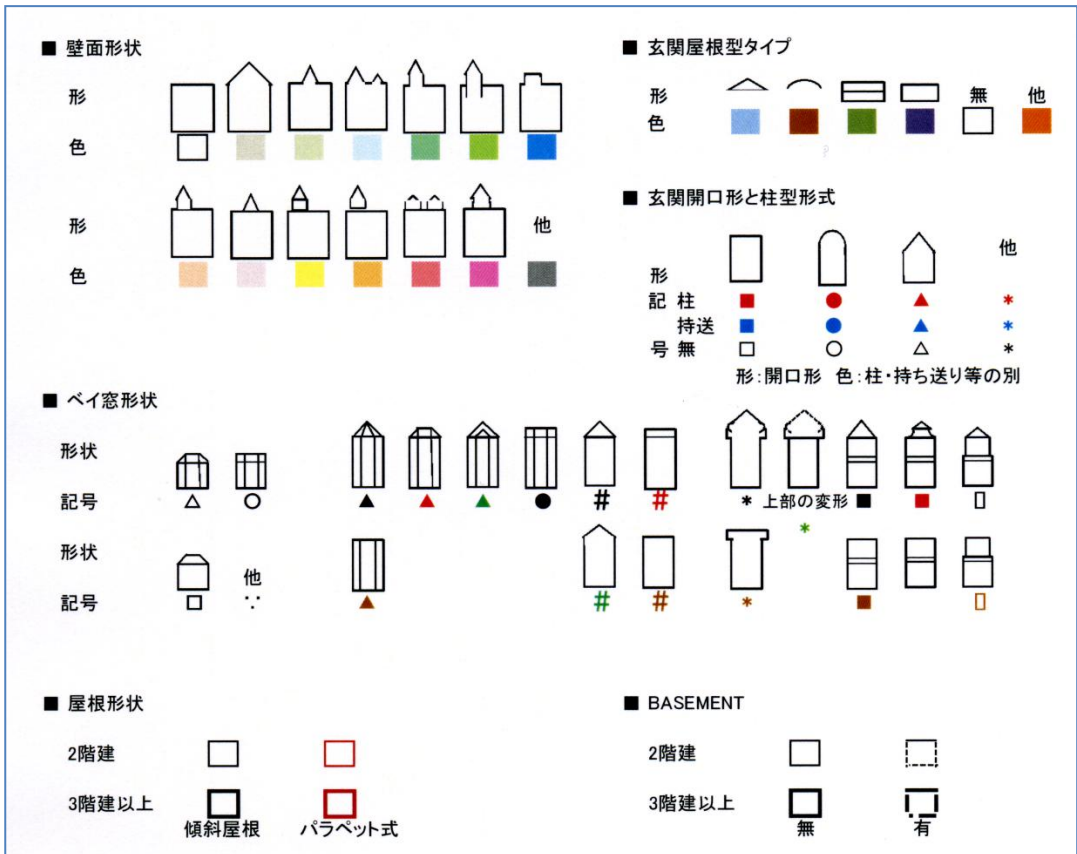


図-09: 家並周辺関係分析図_凡例

「家並周辺関係分析図」からは次の事柄が読み取れる。

- ・地域番号 01 の地域は東西と北をファサード面が四角の住戸が在り、地域内部及び南東部はファサード面上部に凹凸のあるデザインが用いられている。

PLYMPTON AVENU(d02-1)と CLARENCE ROAD(d03)並びに TORBAY ROAD(c01)は壁面、玄関のデザインそしてベイ窓のデザインによって家並にアクセントを付けている点が共通していて、これらの街路は接続している。

- ・BURTON ROAD(d05)の北側と BUCKLEY ROAD(d04)の北側にも共通したデザインがみられる。

- ・地域番号 02 と地域番号 03 の地域とは縦に走る街路が d06 と交差する点で KENIL WORTH ROAD (c08) と HAZELMERE ROAD (c14)に分かれることから PRIORY PARK ROAD (d06)と GLENGALL ROAD (d07)の中間で地域を分けているが、「家並周辺関係分析図」をみるとファサード壁と玄関形状の類似性が TENNYSON ROAD (c05)、KINGSLEY ROAD (c07)、PRIORY PARK ROAD (d06)、ESMOND ROAD (d08)と CHARTERRIS

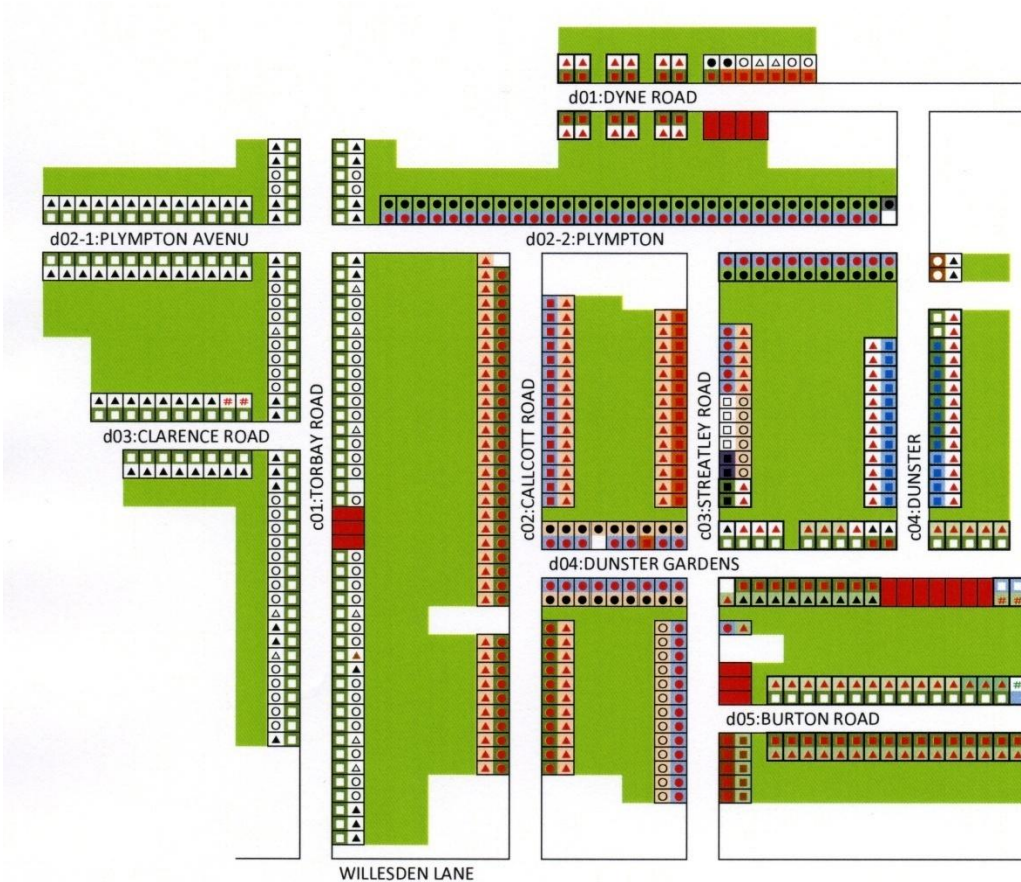


図-10: 家並周辺関係分析図_地域番号_01



图-11：家並周辺関係分析图_地域番号_02、03、04

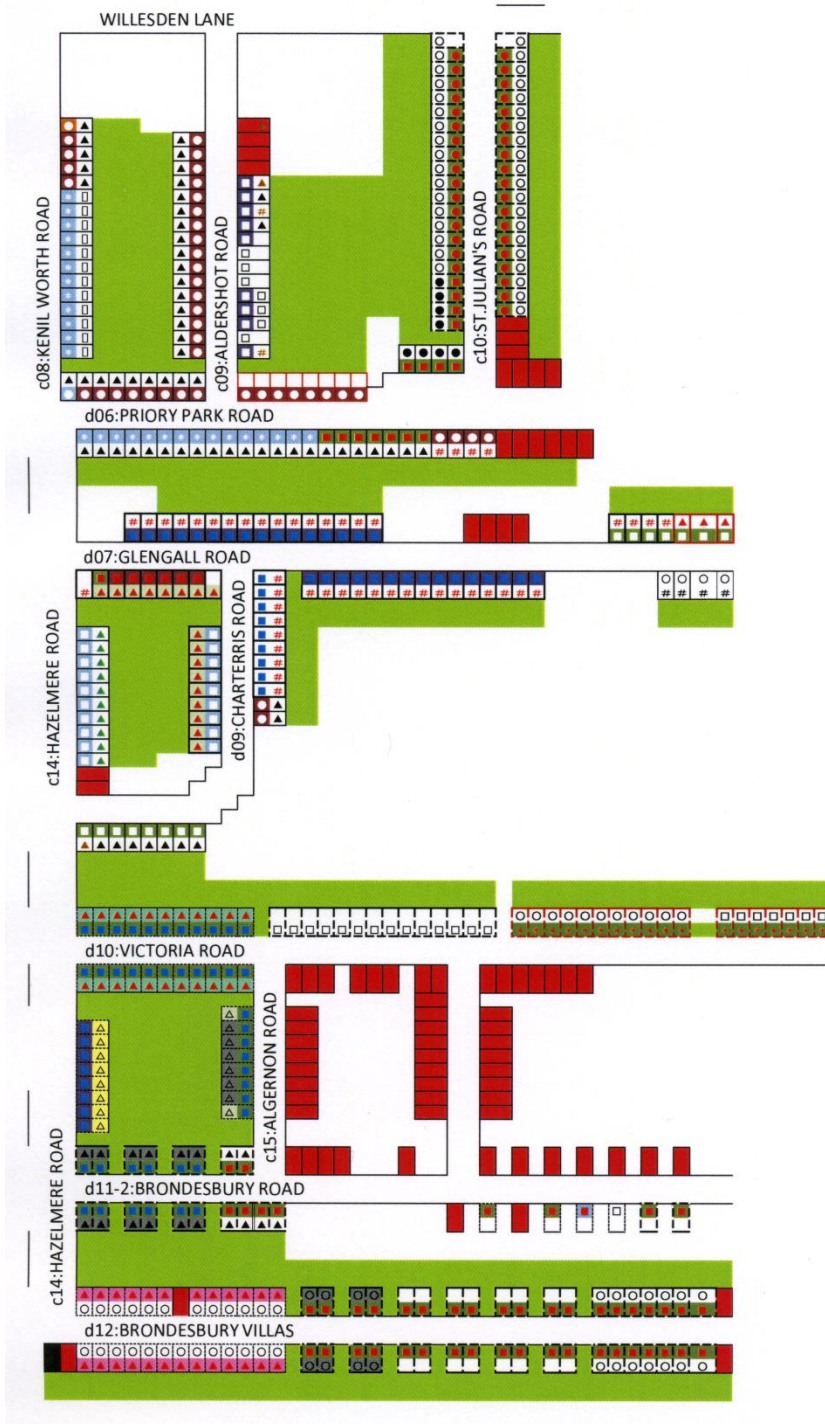


図-12: 家並周辺関係分析図_地域番号_02、03



図-13: 家並周辺関係分析図_地域番号_05

ROAD (d09)に見られる他、TENNYSON ROAD (c05) と KENIL WORTH ROAD (c08)、PRIORY PARK ROAD (d06)、GLENGALL ROAD (d07)にもファサード壁と玄関形状の類似性が見て取れることからファサードデザインの観点からは CHARTERRIS ROAD (d09) と VICTORIA ROAD (d10) の中

間に境界線を設けた方が適切であったともいえる。

PRIORY PARK ROAD (d06)の北側中ほどに見られるデザインが PRIORY PARK ROAD (d06)と直行する KINGSLEY ROAD (c07)、KENIL WORTH ROAD (c08)、ALDRSHOT ROAD (c09)に PRIORY PARK ROAD (d06)と連続する形で用いられているが、このデザインは GLENGALL ROAD (d07)の北側の家並にも用いられており、このことから上述のことがいえる。

ベースメント階の有無に着目して「家並周辺関係分析図」を見るとベースメントを有する住戸は 03 地域、特に d10 以南に集中しており、ここではこれが主となっている。その他では 05 地域の d13 の一部に見られるのみである。

屋根形状についてみると壁面がそのまま立ち上がるパラペット系は極端に少なく d10 の北側東端の家並と d13 に見られるだけである。この点もこの地区を特徴付けるものである。

「家並周辺関係分析図」で地区を俯瞰することは地区の構造を明らかにする上で有効であった。

6. まとめ

今回調査対象とした KILBURN HIGH ROAD 地区は図-02 にみるように再開発された地域が少なく、比較的保存状態の良い地区であった。地域ごとに比較するために図-01 に示すように便宜的に地域を分けてみたが、それは住戸のファサードデザインや家並みといった観点からすると前節に記したように適したものではなかった。しかし、分析はこの地域割りで行っており、これに従ってそれぞれの地区の概要を見てみることにする。

地域番号 01 地域は 45%が 1 種類の立面デザインで構成され、同一デザインで統一的に家並を構成する傾向にある。比較的単調な家並で構成され、シンメトリーなど、統一的な景観を考慮した地域であるといえよう。

地域番号 02 地域は半数以上が 3 種類以上の立面デザインを用いて構成されており、比較的变化に富んだ家並で構成されている。立面デザインの配置方法も塊で配置するもので、家並全体のデザイン構成的な配慮や全体としての街路景観の統一といった考え方は見られない地域といえよう。

表-15：家並分類一覧（N、S、E、Wは街路から見た建物の立つ方位を示す

住戸種類数 分子：種類 分母：横入り等の端部特殊形（種類数に含まず）

街路名	方位	住戸種類数	構成単位型	家並型	住戸数	両側関係型	地域番号	街路番号	掲載図番号	住戸数	家並型	構成単位型	住戸種類数	方位
TORBAY ROAD	E	2/1	b	エ	45	0'	01	c01	図-04	39	エ	b	2/0	W
CALLCOTT ROAD	E	2/0	b	ウ	27	4'	01	c02	図-04	35	ア	b	1/1	W
STREATLEY ROAD	E	7/0	b	ウ	19	4	01	c03	図-04	26	イ	b	2/0	W
DUNSTER GARDENS	E	3/0	b	ウ	20	1'	01	c04	図-04	12	ア	b	1/0	W
TENNYSON ROAD	E	3/1	b	ウ	22	3'	02	c05	図-04	57	ウ	b	4/0	W
DOUGLAS ROAD	E	1/0	b	ア	22	0	02	c06	図-05	22	ア	b	1/0	W
KINGSLEY ROAD	E	1/0	b	ア	19	4'	02	c07	図-05	21	ウ	b	4/1	W
KENIL WORTH ROAD	E	2/0	b	ウ	17	3	02	c08	図-05	17	ウ	b	3/2	W
ALDRESHOT ROAD	E	7/2	b	ウ	13	4'	02	c09	図-05	16	ア	b	1/1	W
ST.JULIAN'S ROAD	E	1/1	a	ア	18	0'	02	c10	図-05	21	ウ	a	2/2	W
HONITON ROAD	E	2/0	b	カ	8	0	04	c11	図-05	8	カ	b	2/0	W
LYNTON ROAD	E	2/0	b	カ	8	0	04	c12	図-05	8	カ	b	2/0	W
DONALDSON ROAD	E	2/2	b	カ'	25	0'	04	c13	図-05	19	カ'	b	2/2	W
HAZELMERE ROAD	E	2/1	b	ア	18	1'	03	c14	図-05	6	ア	b	1/1	W
ALGERNON ROAD						-	03	c15	図-05	8	ア	b	1/1	W
DYNE ROAD	N	3/0	b	ウ	13	0'	01	d01	図-06	6	ア	b	1/0	S
PLYMPTON AVENU	N	1/1	b	ア	13	0'	01	d02-1	図-06	13	ア	b	1/1	S
PLYMPTON ROAD	N	1/1	b	ア	32	1	01	d02-2	図-06	12	ア	b	1/0	S
CLARENCE ROAD	N	2/0	b	ウ	10	1	01	d03	図-06	3	ア	b	1/0	S
BUCKLEY ROAD	N	4/0	ab	イ	24	3'	01	d04	図-06	23	イ	b	3/1	S
BURTON ROAD	N	3/0	b	ウ	16	0'	01	d05	図-06	16	ア	b	1/1	S
PRIORY PARK ROAD	N	5/1	ba	イ	47	4	02	d06	図-06	55	ウ	b	6/0	S
GLENGALL ROAD	N	8/0	b	ウ	53	4	03	d07	図-06	49	ウ	b	7/1	S
ESMOND ROAD	N	7/0	b	ウ	22	3'	03	d08	図-06	27	ウ	b	4/1	S
CHARTERRIS ROAD	N	4/0	b	ウ	35	3'	03	d09	図-07	50	ウ	b	4/1	S
VICTORIA ROAD	N	6/0	ba	イ	45	0'	03	d10	図-07	19	イ	b	3/0	S
BRONDESBURY ROAD	N	3/0	ba	イ	16	0'	04	d11-1	図-07	9	ア	b	1/0	S
BRONDESBURY ROAD	N	7/3	b	ウ	26	0'	03	d11-2	図-07	32	ウ	ba	7/1	S
BRONDESBURY VILLAS	N	6/0	b	ウ	54	0'	03	d12	図-07	50	ウ	b	6/0	S
MESSINA AVENUE						-	05	d13	図-06	27	ウ	b	3/0	S
GASCONY AVENUE	N	1/1	b	ア	24	4	05	d14	図-07	23	ウ	b	2/0	S

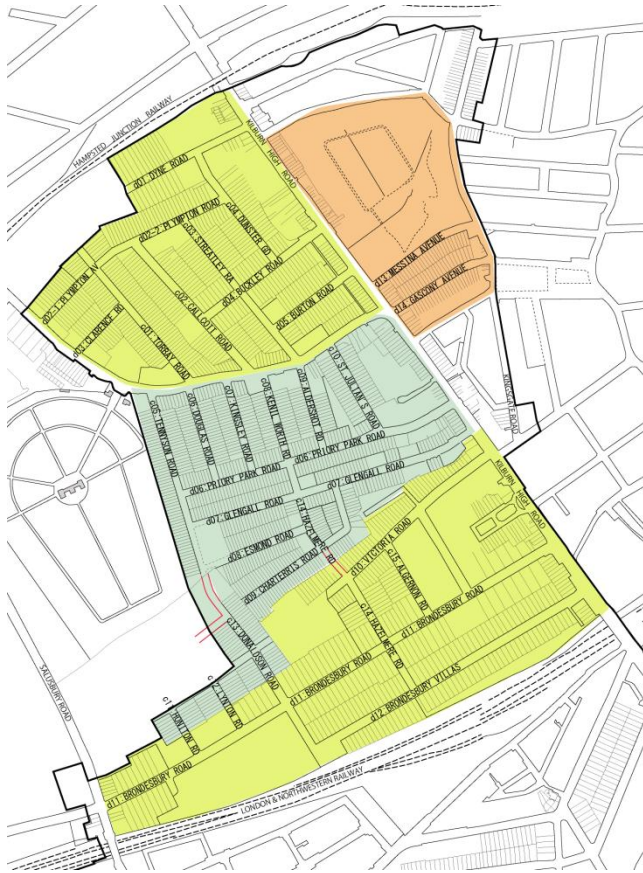


図-01:分析結果を考慮した地域区分

ると不適切な部分がある。それを是正したものが図-01である。

以上のことを踏まえ、前回までに報告した地区との相違点を中心に当該地区の特色をまとめると以下ようになる。

住戸ファサードデザインについてはファサード上部に凹凸の付くものが多い。また、ファサードリストの[A08]、[A10]、[A13]、[A16]そして[A17]に見られるベイ窓の形も他の地区では見られなかったデザインであり、独自性が強い。

家並構成単位については (b)の鏡写しの2戸を組み合わせたものが88.3%と圧倒的多数を占めている反面、(c)、(d)、(e)、(f)タイプがまったく見られなかった。

家並全体の構成としては(ウ)の街路等による分節もなしに家並を数区に分けそれぞれに別のパターンを並べるものが主であり、TERRACED HOUSEを考案した Inigo Johnes が意図した家並全体で宮殿のような1つの大きな建物を成すものは見られなかった。

地域番号 03 地域は多種類の立面デザインを用いる傾向は更に強くなり、道路などで分割された同一区画内でも複数の立面デザインが塊として用いられており、大変変化に富んだ家並で構成されているといえる。地域全体としては景観に配慮した街路とそうでない街路が混在しているといえよう。

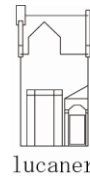
地域番号 04 地域は統一とか、シンメトリーとかを強く意識した地域であり、家並全体での美的構成を考慮しているものが多い。

地域番号 05 地域は非常に狭く、3列の家並しかないが、全体的に美的配慮がなされているとは言い難い。

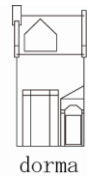
分析に用いた地域分けは便宜上設けたものであるが、家並み構成の共通点など分析の結果を考慮す

注記

(*1) lucaner : 屋根裏部屋等に窓を付けるための立ち上がり、またはそうして作られた窓。石やレンガといった外壁と同じ材料で壁面と同じ面に作られる。



(*2) dorma : 屋根裏部屋等に窓を付けるための立ち上がり、またはそうして作られた窓。Lucaner と異なり壁面より奥まった位置に付けられることが多い。また材料も必ずしも壁材と同じではなく軽い材料が用いられることが多い。



(注記はいずれも参考文献 4 と 5 による。)

参考文献

- 1) Stefan Muthesius THE ENGLISH TERRACED HOUSE 1982、Yale University
- 2) Doreen Yarwood DOREEN YARWOOD ENCYCLOPEDIA OF ARCHITECTURE 1985、B. T. Batsford Ltd
- 3) Edward Jones & Christopher Woodward THIRD EDITION A GUIDE TO THE ARCHITECTURE OF LONDON 2000、Seven Dials、 Cassell & Co
- 4) James Stevens Curl A DICTIONARY OF ARCHITECTURE 1999、Oxford University Press
- 5) Cyril M. Harris DICTIONARY OF ARCHITECTURE AND CONSTRUCTION 1975、McGraw-Hill, Inc.
- 6) Alan Godfrey Edition OLD ORDNANCE SURVEY MAPS
36:Willesden Green 1893
37:Swiss Cottage 1894